



「子供の自立心を育む」

梅雨雲や かかと踏み踏み 走る子ら

今にも雨が降ってきそうな空を見上げて、降る前に少しでも遊びたいと子供たちが校庭へと飛び出していきます。梅雨明けが待ち遠しい季節になりました。1学期も後17日で終わりになります。

さて、6月21日(日)から2泊3日で、6年生が日光移動教室に行ってきました。友達と寝食を共にする行事は、子供たちを大きく成長させます。今回もたくさんのエピソードが生まれ、数々のきらめく子供たちの姿が見られました。

刈込湖切込湖のハイキング。木漏れ日の中、鳥のさえずりが耳に心地よく聴こえてきます。行動班で歩きながら、ひかりごけに足を止めて覗きこみ、刈込湖のエメラルドグリーンの水に目を奪われ、突然広がる溜沼の雄大さに息をのむ。身体と日光の自然が溶け合って、自分が大きな命の中に生きていることを感じます。きつい登り道、「リュック持ってあげようか。」と声をかける友達に「大丈夫、みんなと同じに頑張る。」と答えながら、息を何度も大きく吐き出しながら一歩を踏み出す子。安全第一を考えて山王峠の上で待機させていた車に乗せる子も一人も出ずに、全員が光徳牧場までの全行程を完歩しました。その日の夜、生憎の雨で「星空パーティ」が室内の「きらめきパーティ」に変わりましたが、子供たちのエネルギーは留まることを知らず、ダンスに歌に大盛り上がり。パーティの最後の方では、部屋の真ん中に置かれたランタンの灯りを見つめて、この日光で気付いた自分や友達のことを振り返ります。

「私が具合が悪くなった時みんなが、大丈夫?と声をかけてくれたことが嬉しかったです。」子供

校長 上田 祥市

たちは次々に立ってマイクを繋ぎ、感じたことを言葉にします。いつもはみんなの前で話すことが苦手な子も立ち上がり、思いを語る姿は感動です。一人一人の思いを受け止め、心が繋がっていくのが見える、そんなシーンでした。

6月26日(金)の17時から翌日27日(土)の朝8時まで、4年生が本校で防災キャンプを行いました。今年初めて行うことにした防災キャンプ。総合的な学習の時間で学んでいる「防災」の学習の一環です。子供たちは地震の怖さ、東日本大震災の時の人々の様子や思い、そして避難所について調べてきました。4年生にとっては初めての宿泊行事ですから、ワクワクしているのも無理はありません。でも、始まると子供たちは真剣です。アルファ米の作り方を説明するグループ、手回しラジオの局を合わせてラジオ情報の良さを伝えるグループ、限られた水を準備するグループ、段ボール寝床を作るグループ、暗い中の遊びを考えたグループ、怪我したときの処置を説明するグループ、ランタンを準備するグループ。それぞれ自分たちが調べてきた方法を実践していきます。寝る前の振り返りでは、うす暗い視聴覚室で班ごとに気付きを話し合います。「僕たちは一日だけど、これが続くと辛いと思う。」「ペットボトル1本の水は貴重だ。」「(被災者は)やはり不安だったと思う。家があり家族がいるのが安心。」どの班も話し合いが止まりません。

親元を離れての宿泊行事は、子供たちの自立心を芽生えさせ、友達とのかかわりの中で協働意識や連帯意識が育つことを改めて感じました。9月には、5年生が甲府移動教室に行きます。